

ユニットプライス型積算方式の構築と試行

総合技術政策研究センター 建設システム課 課長 溝口 宏樹 主任研究官 石神 孝之



1. はじめに

日本の公共工事の積算は、材料費、労務費、機械経費を詳細に積上げる方式であり、精緻である反面、工事価格の算定に多大な労力を要している。今後、積算に関わる作業の合理化、積算価格の透明性向上、市場価格の積算へのよりの確な反映等の課題に取り組む必要がある。これらの課題に対応し、日本の積算方式の抜本的な合理化を図るため、欧米では一般的に実施されている手法である施工単位あたりの単価と数量を用いて積算する「ユニットプライス型積算方式」の構築について、これまで研究を進めてきている。本研究の成果を踏まえて、2003年9月に策定された政府の「公共事業コスト構造改革プログラム」の施策の一つとして「施工単価方式による積算体系の導入」いわゆるユニットプライス型積算方式の導入が盛り込まれたところである。本稿では、ユニットプライス型積算方式の概要、導入により期待される効果、今後の試行に向けた取り組みなどについて紹介する。

2. ユニットプライス型積算方式の概要

現行の積算方式は、歩掛を用いて材料費、労務費、機械経費を詳細に積上げる方式である。ユニットプライス型積

算方式とは、積算の抜本的な合理化を目指し、歩掛を用いず材料費、労務費、機械経費、諸経費などを含んだ単価(ユニットプライス)を積算に使う手法で、「数量」×「単価」の総和を積算金額とするものである。

3. 期待される効果

ユニットプライス型積算方式の導入により期待される主な効果としては、積算価格の説明性向上、目的物単位の工事費の把握が容易、積算業務の省力化などが挙げられる。

4. 今後の試行に向けた取り組み

これまで、ユニットプライス型積算方式の構築に向けて、ユニットの括り方、諸経費の扱い、データ収集・データベース構築の方法、物価変動への対応、ユニットプライスの妥当性検証方法等について検討を進めてきたところである。

今後、ユニットプライス型積算方式への移行に向けて、ユニットプライスの実績データの収集・蓄積・分析を行いつつ、ユニットプライスの設定等を図っていく。さらに、実際の工事においてユニットプライスを用いた積算による試行を開始し、試行を通じて検証を行い、ユニットプライス型積算方式の確立を図っていくこととしている。

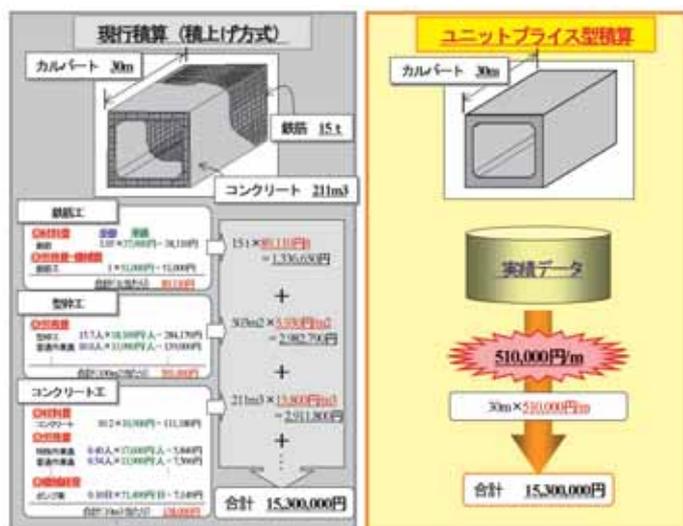


図-1 ユニットプライス型積算方式のイメージ

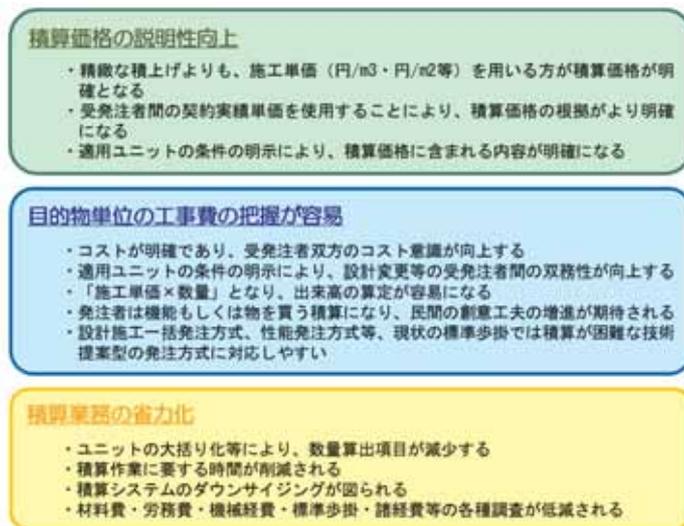


図-2 期待される主な効果